

よろずは

平成二五年

八月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

万葉文化館 おすすめ万葉歌

織女たなばたし

船乗ふなりすらし

真澄鏡まそか

清きよき月夜つきよに

雲立うみだち渡わたる

万葉集 卷十七—三九〇〇 大伴家持

【意訳】

織女がいま船に乗っていくらしい。

澄んだ鏡のように清らかな月夜に、雲の波が立つ。

七夕たなばたといえは、中国の伝説をもとにした七月七日の行事です。笹を立て、短冊に願いを書いた経験がある方もいらつしやるかもしれませぬ。旧暦の七月は、現在の暦の八月頃に相当します。今年の七夕は八月一三日です。天の川をはさんで離ればなれの織女たなばたと牽牛ぎゆうが、年に一度この日の夜にだけ会えると言われていて、雨が降るとその年は会えないと言ひ伝えられています。新暦の七月七日は雨の多い時期ですが、旧暦ならば、二人の逢瀬おうせを邪魔する雨もそれほど気になりませぬ。

『万葉集』には一三〇首以上の七夕歌があります。当時の通い婚とおいこんの風習から、多くの歌では牽牛が織女の元へ行くと表現されますが、この歌では織女が訪ねていく様子が詠まれています。星々の集まる銀河を天上世界の川と考え、夜空の雲を天上の川を渡る船が立てる波とみた、当時の七夕歌らしい、美しい歌です。

【万葉古代学係】